

# 1 パブリック・コメントの実施状況

## (1) 募集期間

平成20年5月2日（金）から平成20年6月2日（月）まで

## (2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開コーナー、各地方県民相談室、各県立高等学校で自由に閲覧できるようにしました。

## (3) 意見提出方法等

郵送、ファクシミリ、電子メールにより意見を募集しました。

# 2 意見の件数

14人 51件

# 3 提出された意見及びこれに対する考え方

## (1) 県立高校再編整備計画(平成20年度～平成23年度計画(案))の内容に係る意見(37件)

意見の内容	意見に対する県の考え方
<b>1 再編整備</b> <b>(1) 再編統合(9件)</b>	
<b>【田布施農業高校と田布施工業高校の再編統合に係る意見】</b>	
農業と工業は内容の面でオーバーラップする部分や相互に補完し合う部分も多いので、特色ある教育を展開していく上で賛成である。	両校が行ってきた農業科と工業科の教育機能を統合後の学校においても、維持・充実させるとともに、環境保全やバイオ技術の活用など、農業と工業の融合した分野も学習できる新しい学校づくりに努めます。
両校を統合して教育内容をより合理的で選択幅の広いものにすることが、生徒にとって必要だと思う。	
両校の統合により部活動の数や部員数を増やし、元気のある強い部活動にして欲しい。	両校の統合により、多様で活力のある部活動の展開に努めます。 また、国体強化指定を受けている部活動をはじめ、各部活動の技術・技能の一層のレベルアップに努めます。
現在の田布施農業高校でも、園芸をはじめとした特色ある学校運営は可能であり、農業に従事する多くの人材を輩出してきた県東部の拠点である単独農業高校の特色がなくなることが心配である。	これまでの田布施農業高校における農業教育の実績を踏まえ、新高校の農業に関する学科においても、引き続き、農業後継者や関連産業に従事する人材、さらには、地域づくりや環境保全等に貢献できる人材の育成などに努めます。
田布施工業高校は、下松工業高校や柳井商工高校と統合して、工業教育の専門性を高めるべきだと思う。	両校が行ってきた農業科と工業科の教育機能を統合後の学校においても、維持・充実させるとともに、環境保全やバイオ技術の活用など、農業と工業の融合した分野も学習できる新しい学校づくりに努めます。
田布施農業高校と田布施工業高校の統合については、県内初の農工連携になるが、唐突な感じがする。	

意見の内容	意見に対する県の考え方	
<b>(2) 工業科の設置 (7件)</b>		
<b>【防府商業高校への工業科の設置に向けた準備に係る意見】</b>		
<p>商業科に工業科を設置することで、学科の枠を越えた学習を進めるという内容に興味がある。</p>	<p>地域産業のニーズや工業教育機能の地域バランス、新たに設置した商工高校の成果等を踏まえ、防府商業高校に新たに工業科を設置する方向で検討を進め、その設置に向けた準備に取り組みます。</p> <p>また、その際、具体的な学校づくり等については、小・中・高等学校の保護者など、広く関係者の意見も聴きながら検討を進めます。</p>	
<p>防府地区への工業系の学科の設置は、生徒の進路の選択幅が拡大するので望ましい。</p>		
<p>産学教育における、工業高校の重点強化が必要であり、工業科のなかった地域にある防府商業高校に工業科を新設することは大いに理解ができる。</p>		
<p>防府商業高校の校名等の継承を希望する。</p>		
<b>(4) 長門地域、定員割れが継続する高校等 (11件)</b>		
<b>【長門地域の高校の再編整備に係る意見】</b>		
<p>生徒にとって選択幅が広く、地域の発展に貢献できる県立高校が長門市に必要だと思う。</p>	<p>長門地域にある大津高校、日置農業高校、水産高校の将来の在り方について、引き続き、関係者の意見を聴きながら、再編整備についての検討を進め、その内容が計画に掲げられるようになった時点で対象校を追加します。</p>	
<p>大津、水産、日置農業の3校を統合して、生徒数を増やし、選択の幅を広げることで学習や部活動の活性化を図り、地域が必要とする人材を育成できるよう希望する。</p>		
<p>大津、水産、日置農業の各高校を統合して、3校のキャンパスを活用しながら、地域との繋がりを密にした特色のある学校をつくって欲しい。</p>		
<p>統合を契機に、大津、水産、日置農業各高校に現在ある学科の検討が必要である。例えば、大津高校の英語コースの検討、水産高校に時代のニーズにあった新設学科の検討、日置農業高校への食品工学科、調理科の新設の検討などが考えられる。</p>		
<p>長門市内では小・中学校を統合しており、高校も同様に考える必要があると思う。</p>		
<p>統合によるメリット、デメリットをしっかりと検討し、デメリット対策も必要だと思う。</p>		
<p>水産高校を下関市に移転して、造船の学習ができる下関中央工業高校と再編してはどうかと思う。</p>		
<p>水産と日置農業を統合、大津と豊北を統合してはどうかと思う。</p>		
<b>【定員割れの継続する高校等の再編整備に係る意見】</b>		
<p>美祿高校は、定員割れが大きく、子どものニーズに合っていないのではないかと思います。</p>		<p>今後の入学状況等を見極めながら、再編整備の検討を進めます。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<b>2 学区外からの入学枠（2件）</b>	
学区制は撤廃して、生徒を行きたい高校に行かせるべきだと思う。	御意見を踏まえ、学区外からの入学枠については、平成21年度入学者選抜から拡大するよう記述を修正しました。
学区外からの入学枠については、すぐにも拡大してはどうかと思う。	
<b>3 計画の進め方（8件）</b>	
再編は必要であると思うので、可能な範囲で早期の実施をして欲しい。	<p>選択幅の広い教育、活力ある教育活動、多様な人格とのふれあいなど、より質の高い高校教育を子どもたちにできるだけ早く提供するため、再編整備に着実に取り組みます。</p> <p>その際、小・中・高等学校の保護者など、関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりやその実施時期等について検討します。</p>
統合によるメリットとデメリットをしっかりと検討して、統合に踏み切ることが必要だと思う。	
統合によって受け継がれる伝統や新たに作られる専門性の区別ができているかを明確にして欲しい。	
近い将来入学するであろう子どもの保護者を対象として、意見、思いをしっかりと聞くための場を多く設定して欲しい。	
児童生徒、保護者、教職員、地域住民の意見を聞き、具体を検討すべきだと思う。	
柳井・徳山・萩の商工高校における生徒の選択幅の拡大など、再編統合の成果を生かして欲しい。	学習や部活動での生徒の選択幅の拡大など、再編統合した学校の成果を生かしながら、新しい学校づくりに取り組みます。

## (2) その他の意見 (14件)

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

再編整備全般に係る意見 (7件)
○子どもたちがスポーツの種目を自由に選択できる学校環境をつくって欲しい。
○高校を統合することによって、団体球技ができる環境と競技力アップを求める。
○県内の工業科の配置についての再検討が必要だと思う。
○学科の枠を越えた連携ということであれば、普通科と職業科を統合して、生徒に幅広い進路を高校教育の中で実践するのがよいと思う。
○学校規模が大きくなることが学校の活性化にもつながり、子どもたちにとってメリットが多いと思うので、早急な対策が必要だと考える。
○夢の実現に頑張っている子どもたちのためにも、学校設備、環境、教職員数、クラブ活動(クラブ数)の充実、本来の学校行事ができるなど、適正規模での学校運営が必要だと思う。
個別の学校に対する意見 (5件)
○下関中央工業高校と下関工業高校を統合して、学習の充実を図ってはどうかと思う。
○芸術教育に体系的な教育プログラムが必要であり、県立高校に芸術科又は芸術コースを新設してはどうか。例えば、山口中央高校に芸術コースを設けてはどうかと思う。
その他の意見 (2件)
○高校の再編整備を進めることにより、教育県と言われていた山口県における明確な教育改革を進めて欲しい。
○再編などで同窓生などが母校を思う気持ちは十分理解できるが、これから高校に入学する今の小学生・中学生の保護者に任せ、温かく見守って欲しい。